▼ニューレプチル錠・▼細粒・▼内服液　［内］

【重要度】　【一般製剤名】プロペリシアジン　Propericiazine　【分類】精神神経用剤［フェノチアジン系］
【単位】▼5mg・▼10mg・▼25mg/錠，▼細粒 10%，▼1%内服液
【常用量】10～60mg/日
【用法】分割投与
【透析患者への投与方法】データがなく不明（5）おそらく他のフェノチアジンに類似する PK であろう（5）
【保存期 CKD 患者への投与方法】データがなく不明（5）おそらく他のフェノチアジンに類似する PK であろう（5）
【特徴】ピペリジン系フェノチアジン誘導体．ジメチルアミノプロピル系よりも鎮静催眠作用が，ピペラジン系よりも錐体外路症状が弱い．統合失調症の不安，緊張，抑うつ気分，幻覚，妄想，作為体験，精神運動興奮，自閉，自発性減退等の各種症状に効果を示す．
【主な副作用･毒性】悪性症候群，突然死，血球減少，麻痺性イレウス，遅発性ジスキネジア，SIADH，眼障害，静脈血栓，過敏症，血圧降下，頻脈，不整脈，消化器症状，パーキンソン症候群，体重増加，女性化乳房，錯乱，不眠，めまい，頭痛，口渇，鼻閉など．
【安全性に関する情報】制吐作用のため症状不顕化のおそれ（1）治療初期の起立性低血圧に注意（1）
【F】資料なし（1）
【tmax】資料なし（1）
【代謝】資料なし（1）活性代謝物 periciazine（Drugs and Lactation Database PMID: 35442605）
【排泄】資料なし（1）
【t1/2】資料なし（1）
【蛋白結合率】資料なし（1）
【Vd】資料なし（1）
【MW】365.49
【透析性】除去されない（1）
【薬物動態】投与量と血中濃度の関係には個人差が大きい（Aoba A, et al: Arch Gerontol Geriatr 5: 147-57, 1986 PMID: 2875692）
【O/W 係数】676［1-オクタノール/buffer，pH 7.8］（1）
【相互作用】アドレナリンの血圧反転（1）
【主な臨床報告】抗ドパミン作用と用量は逆 U 字型である点がハロペリドールに劣る理由として考察（Nishikawa T, et al: Psychopharmacology (Berl) 1984 PMID: 6144125）
【更新日】20241007

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。